2023 年度 前期

京都芸術大学 授業改善アンケート
各学科・センターから学生のみなさんへのフィードバック・コメント

美術工芸学科

2023 年前期に美術工芸学科で開講された授業は全部で 90 科目あり、講義と演習など全授業のアンケート結果を見させていただきました。その中で、皆さんが真摯に授業に取り組み、そして様々な思いや感想を抱いていることを知ることができました。評価の高い科目や自由記述のポジティブなコメントからは、授業目的や課題設定を適切に理解し、集中して取り組んでくれたこともわかりました。また、評価の低い科目や個々の疑問や意見には、今後もしっかりと耳を傾け是正と解消に向けて取り組み、更なる授業改善と充実した学びに繋げていけるよう努力することをお約束します。

キャラクターデザイン学科（マンガ学科含む）

授業アンケートにおいて、学生の皆さまからの貴重なご意見をいただきありがとうございました。

学生中心の学科運営に向けて教員一同、授業においても常に改善を進めてまいります。

そのうえで、学科授業は目標ではなく手段であると考えています。学生の皆さんが、なりたいものになるために、成し遂げたいことを成し遂げられるために、そして自分らしく生きていくために、その知識や思考力・表現力を自ら学び獲っていく場が、授業であると考えています。

そのために、学生の皆さんの好奇心を刺激できるような授業内容に改善していくことはもちろん、教員間で情報を共有し、全体課題量調整による自主制作時間の確保、また評価においても授業単位習得するための到達目標とともに、自主的に取り組んだ学習についてもより高く評価できるような仕組みについて検討を重ねてまいります。

授業アンケートのみならず、普段の生活から疑問や意見など気軽にご相談ください。

学生のみなさんも一緒に、楽しく学べる場所をつくってまいりましょう！

情報デザイン学科

数多くのコメントありがとうございました。

教員全員で確認し、以下の取り組みを行います。

⑴ 課題については、2022 年度に全ての授業において課題の内容・難易度・時機・制作期間などを精査かつ調整し、全教員がそれをすべて把握した上で個別に対応しています。適切な課題の在り方については今後も継続的に検証を続けると同時に、授業外学習の意義の理解促進を図ります。

⑵ 複数教員が共同担当する授業運営においては教員間のコミュニケーションや連携を強化していきます。

⑶ オンライン授業の充実、ハイブリッド型授業への切替を進め、授業運営の効率化を図ります。

⑷ 合評においては公平性やハラスメントの観点からさらなる改善に努めていきます。

クロステックデザインコース

・講義科目等において、「レジュメがなく、欠席をすると、流れがわからなくなるので、レジュメが欲しい」という要望がありました。この要望については、スライドや配布資料の作成には努めますが、一方で、授業を欠席した場合は、情報の提供を受け身になるのではなく、自らが友人にノートやメモを見せてもらい情報の取得を心がけるなど、大学生として学生自らの積極的な行為を期待します。

・企画やサービス提案、キャリア等の授業において、「良くない例とされる提示が、批判に聞こえて不快である」という要望がありました。この点については、実践経験の不足している領域や内容においては、抽象的な内容で「良い例（実践例）」と「良くない例（不足点）」を提示しても、自身の思考や行動に投影して考えることが容易ではないため、批判として聞こえないような伝え方には留意しながら、一方で、自身に置き換えて考えることができるよう具体的な例示として伝えることを大切にしたいと考えています。

・グループワークの授業での進め方や評価についての要望がありました。こちらについては、学生個人やグループのメンバー内での受講姿勢や準備、実践状況によっても、流動的に変化するため、簡単ではない側面もあります。進め方や評価については、グループワークの様子を教員はできる限り丁寧に観察を行い、適宜フィードバックを進めて改善を行います。一方で、話し合いやプランを考えることで終わりがちな課題に対して、個人での実践や、早期の試作・検証をコースとしては強化をしていくことでも改善を図ります。

プロダクトデザイン学科

23 年度前期授業へのアンケートでは、授業設計・運営に関して、進め方と課題量への懸念が回答から読み取れました。一方で、授業に対するポジティブなコメントも多く寄せられていることを考えると、学生個別への対応に課題があると認識しています。個々の理解・進捗を丁寧に確認し、すべての学生に対して学修の深化を進める授業対応に配慮していきたいと思います。

一部教員の言動に対するコメントがありましたが、教員への確認と再発を防ぐ意識付けを行いたいと思います。

空間演出デザイン学科

授業改善アンケートに答えてもらってありがとうございました。

多くの学生さんから、授業を受けて新しい力が身に付いたこと、先生方から丁寧に教えていただいたことへの感謝、新しい世界を知ることができたこと、将来につながると思えたこと、グループでの活動をがんばれたこと、課題をすることで成長できたことなど、たくさんの声を寄せてもらい、教員みな、うれしく読ませてもらい、大変励みになりました。本当にありがとう！

先生方もよりよい授業をしていくために、日々、研鑽をしています。大学で研修を行ったり、新しい社会の状況を把握したり、専門知識や技術を研究して、授業で活用したり、学科での学びが皆さんにとって意義あるものとなるよう、様々な取り組みをしています。後期以降も充実した授業をみなさんにお届けできるよう、教員一同がんばっていきたいと思います。

また、改善に向けてもらった声も検証しながら、取り組んでいきたいと思います。さまざまな教員の指導が皆にとって意味のあるものとなるよう、コミュニケーションを取りながらすすめて行けるようにしたいと思います。施設の設備については、一定の範囲の中となりますが、大学と相談をしながらよりよくなるように検証していきたいと思います。

今後も、共にがんばっていきましょう！

環境デザイン学科

・スライドショーのデータをクラスルーム上にアップするか否かについては、内容にもよるところもあり、できるだけ学生の復習に役立つような形での素材提供はこころがけていきたい。

・アンケートに基づいて、課題の難易度や提出物要件に関しての見直しは不断に行うようにしているので、今年度の結果を踏まえまた来年度ももろもろ見直す予定である。

・講評会が 2 日程にわたる場合の不公平感は無くす工夫をしていきたい。

・キャリア授業の一方的な授業形態を見直し、学生の自発性を生み出す内容としていきたい。

・オムニバス授業の各教員によるワークのバラツキは改善したい (オムニバス授業自体へはいろいろな教員の話を聞けるという意味で学生の評価は高いので、できるだけ継続したいが)。

映画学科

皆さんが回答してくれた 2023 年度前期の授業改善アンケートの結果やコメントを映画学科の専任教員全員で確認し、話し合う機会を設けました。もちろん学科としては、皆さんにとってできるだけ有意義な学びや経験を提供しようと日頃から知恵を絞り、力を注いでいますが、他方で現状が完全な「正解」であるとも考えていません。だから、皆さんの回答やコメントは、学科と教員が個々の授業の在り方を振り返る機会、改善すべき点、考慮すべき点を洗い出し、後期以降の授業運営、次年度以降のカリキュラムや授業の計画などで活かすうえでのヒントを提供してくれるものです。いくつか気になった点を挙げると、学科のゼミ運営についてのコメントが目立つように思いました。もとより映画制作に「正解」はなく、作品のテーマやそれに関わるメンバーらによって、それぞれの「解」、自分たちなりの方法論を追求し、発見する必要がある点については、いつも話してきているところかと思います。映画制作を中心とした経験や学びを通じ、集団で一緒に作品を生み出す力やコミュニケーション能力を獲得してもらうことこそ、学科の映画教育の根幹になりますが、他方で、その集団制作を通して悩みを抱える人も出てきます。あるいは、同じ授業に関して、教員が介入しすぎだとするコメントもあれば、もっと指導や助言がほしい、という逆の反応もあります。あるいは、他のさまざまな授業について、適切なペースや難易度で進められたと感じる学生がいる一方で、その逆の感想を持つ学生もいるのです。皆さんが「正解のない問い」に挑戦してもらっている以上、それもある意味で当然のことでしょう。もちろん、「正解はない」、だから、現状の授業や指導のままでいい、という意味ではありません。「正解のない問い」に立ち向うからこそ、私たちはいつも「正解」に近づくことを目指さなければなりません。私たち教員の側でも、映画教育という「正解のない問い」に挑戦する気構えでいるつもりであり、一つひとつの皆さんの回答やコメントを大切に読み、しかるべき点については今後の授業に活かしていきます。今後もどんな機会であれ、意見や疑問があれば、教職員に伝えてください。ともに「正解のない問い」に取り組む学生と教員が一緒に協力することで、さらに良い映画学科を作り上げていければと思います。

舞台芸術学科

授業改善アンケートへの回答、ありがとうございました。皆さんからの高評価、ポジティブ・コメントを嬉しく受け止めました。さらに充実した授業を開講していく参考にさせて頂きます。そしてもちろん、皆さんからのダメ出しにも真摯に耳を傾けて授業改善に取り組んでいきます。ご指摘のあった一部の演習科目での授業内の時間配分、オムニバス科目での教員毎の課題量の差等を調整し改善します。また、一部の講義科目での到達目標や授業設計を見直していきます。

舞台芸術では常に協働が求められるからこそ、授業では皆さん一人一人の成長を重要視しています。

一人一人に必要とされるだけの人間力と創造力が備わっていなければ良き協働はあり得ないからです。

教員一同、皆さんが成長を実感できる授業のあり方を追求していきます！

文芸表現学科

学生から寄せられたフリーコメントはすべてありがたく拝読させていただいた。おおむね好意的なコメントが多く、それはとても喜ばしいことであったが、一部ネガティブなフリーコメントのなかには、学科としておおいに反省し、今後の改善に役立てていきたいと考えさせられた。

とりわけ上述した「文芸と社会 V(瓜生通信)」と「文芸と社会 VI(商業文芸誌)」の社会実装 2 科目においては、耳の痛いフリーコメントが多く、早速、次年度からの改善に動くこととした。やはり社会実装科目は「クライアントの課題を解決する」という全体理念と、その重要性、意義深さを、学科と担当教員、履修生の三者が積極的に理解・共有して初めて、大きな成果を発揮すると思われる。

それにもかかわらず、この 2 科目においては、学生からのフリーコメントとして「担当教員によってスケジュールを振り回される」「担当教員の課題伝達やスケジュール共有が曖昧」「(授業内容が) 社会実装という趣旨からずれまくっている」などの指摘が目立った。学科としてはこれを重く受け止め、今後は社会実装科目の意義についてより学科教員間で理解を深め、さらに今後の履修生にもその意義を丁寧に伝えていくことと同時に、担当教員の適材適所の配置変更なども含めた改善策を講じていきたい。

アートプロデュース学科

・全体的に学生と教員のコミュニケーションやフィードバックについてのポジティブな感想が多く、積極的に参加してくれたことを感謝します。

・逆に、高校までに比して発言する機会が多いことを臆するコメントもありましたが、アートプロデュースという協働が必要な領域においては重要なことなので、この課題はぜひ乗り越えてください。発言することに対してネガティブな反応が返ってくるような環境はここにはないはずです。

・授業計画変更についての案内の不備がありました。こちらについては初回でのアナウンスを徹底していきます。

こども芸術学科

ご学専任 4 名のなかで、Q11 を受けた専任教員の回答を以下に列記しております。

講義系・理論・概論の授業

●映画を観る時間が長く感じた。

→映画や動画など鑑賞してもらう時は目的や意図を踏まえて鑑賞してもらえるように説明します。授業で学んだ制度が、実際にはどう活かされているのか、また課題は何か、自分なりの気づきを深めてもらいたいと思います。

●教員からの質問内容が伝わりにくかった。

→授業の中での問いや質問については、授業の前後に質問に来て頂けるようにしていきたいと思います。毎回のコメントシートにも書いて頂けると、こちらも翌週の授業でフィードバック致します。質問は大歓迎ですので互いに良い学び合いになるように授業を進めていきたいと思います。

●授業時間中にスライドを読む時間が欲しい。

→毎回事前事後学習として、該当のページのテキストを読んでから授業に参加して頂けると、理解しやすいと思います。授業の内容について、スライドはテキストは、連動しています。こちらもアナウンスしていきます。

●グループワークが効果的でないように感じた。フィードバックが欲しかった。

→グループワークやディスカッションは、学生同士が主体となって取り組むことを意図しております。取り組む中でわからなかった点や難しかった点については、振り返りのコメントシートに記入して頂き、翌週に口頭でフィードバックさせて頂けるように時間を設けます。

●事前・事後学修時に振り返りをするための資料が欲しい。

→授業で使用するスライド（PPT）の資料は、共有が可能なものに限りクラスルームなどで掲載するようにしています。基本的な姿勢として、講義の際に自主的にノートをとっておくことや、配布したプリント資料などを綴って自身の記録として作成してもらうことをお勧めします。

こども芸術学科（つづき）

造形演習科目の授業

●授業内での講評時間が長く、制作が十分にできず持ち帰りの課題が多くなってしまったため改善してほしい。

→ 授業では、制作したものを自分の言葉で「発表する」力を養う、というねらいもあり、皆の前で「伝える」時間を大切にしました。今後は制作時間を多くとるように配分の改善を考慮していきます。同時に、授業時間前後にもご自身で制作時間・課題をする時間をつくる工夫もお願いしたいと思います。教室に残ったり、週末教室で制作したりすることは可能です。

●ゼミ担当教員と個別で話せる部屋が欲しい。ゼミ室の湿度が高い点を改善して欲しい。

→教室環境の課題については、学科内でも認識しており改善策を考えています。後期に個室がとれるように調整中です。

歴史遺産学科

歴史遺産学科在校生の皆さんへ

授業改善アンケートに回答していただきありがとうございます。評価やコメント記述から、皆さんの学修意欲が概ね高いことがわかりました。そして、実物・具体的作例によってわかりやすく伝える講義や、実践的な演習に対する評価が高いことがうかがえました。

また、皆さんにとっては、授業に関心を持つこと、学んだことを他者と伝えあうこと、少しずつ前進していくことが達成感に結実している、ということもよくわかりました。

皆さんが主体的な学びをさらに深めていくために、私たち教員は「聴きたくなる」「集中したくなる」魅力的な授業を行うことを目指していきます。授業内容をまとめたレジメなどの配布物が、授業内容の理解や事前・事後学修など主体的な学びの支援になっていること、アクティブラーニングを有効に行うには教員からのフィードバックも重要であることがコメントからうかがえましたので、これらの意見を参考にして授業改善に取り組みます。

教員も授業を行うことによって新たな発見があり、工夫することによって成長の喜びを味わっています。今後も学生の皆さんと教職員との協同によって、より良い授業をともに作っていきましょう。

芸術教養センター

教養科目の多くが zoom を使ったオンライン授業であることから、画質の改善を求める声が多くありました。通信の安定化を図っての zoom 社による設定ですが、後期授業時のバージョンを確認したところ、一定の画質改善が確認できました。表示するスライドの文字サイズや進行スピードに関する情報の適正化を図り、画質とあわせて改善していきます。

オンラインで実施されている授業に関しては、対面を希望する声も見られました、教室の確保や受講定員数の見直しなども含めて、こういった声に応えていきたいと思います。

芸術教育資格支援センター

教員および学芸員という公的な「資格」の取得に関わる科目では、専門家として身に付けておくべき知識・技能が授業内容として規定されています。そのうえに、教員が、それぞれの専門性を活かして、みなさんに伝えておきたい関連内容も加えていくかたちで授業がつくられています。

そのため、多くの授業は、限られた授業時数の中で多くの情報を伝達する点で優れているという特性を持つ「座学」のスタイルを中心に進められています。ただし、その反面として授業があまりにも一方通行になってしまわないように、また皆さんの声を随時授業に活かしていけるように、コメントカードや一枚ポートフォリオなどを用いて、どの授業でもなるべく積極的にフィードバックを行うようにしています。このような、限定的ながらも双方向性を持たせていることについては、受講生の皆さんからも「他者の考えが聞けて参考になる」、「自分の考えの整理や復習になる」、「意見を述べやすい」といった声をお聞きしています。資格課程では、比較的少人数の授業が多いことも活かしつつ、今後も対話のある授業づくりを心掛けていきます。もちろん、質問や意見があれば、こういった機会に限らず、どんどん教員のところへ来て直接コミュニケーションを取ることも歓迎しています。

授業のレベルについて。とくに教職課程のいくつかの授業ではアンケートの Q7「授業のレベル (難易度) や課題の量は適切であった」という項目で顕著に低い数値が見られました。個別のコメントと課題内容、さらには学生のみなさんたちと普段の会話から、これらの授業が「易しかった」のではなく「(かなり) 難しかった」のだろうと判断しています。とはいえ、上に述べた資格課程の条件から、たんに「内容が難しいからレベルを下げてほしい」という要望にたいして安易にお応えすることができないことはご理解ください。この点については、これまでも各教員にいろいろと工夫をお願いしてきましたが、今回、新たに教員間で話し合いをしたところ、中間課題の時期の集中、課題の分量 (あるいは特定科目への負担の偏り) の適正化については何らかの改善対応ができるのではないか、という意見がありました。

今後は、本センターにおいて、資格課程全体を俯瞰する視点も再度意識しながら、課題の時期やあり方を検討していきます。

その他、個別のコメントについて。まず、一部授業において使用教室の狭さの指摘がありました。教室については全学的な課題でもありますので、すぐに改善をお約束することはできませんが、関係各学科や芸術教養センターと調整をしつつ、その授業の実施形態も検討しながら、慎重に配置を進めます。

次に、特定の授業において毎回のように出席コード告知がぎりぎりの時間になっていたというコメントが見られました。この点は担当講師に改善を促すとともに、全教員が注意すべき課題として認識しなおしました。新しい非常勤講師着任の際にも「これまでの反省点」として共有していきます。